

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 王喜の郷		
所在地	山口県下関市王喜本町6-1-12		
電話番号	0832-83-2834	事業所番号	3570101125
法人名	社会福祉法人 緑樹会		

訪問調査日	平成 20 年 2 月 12 日	評価確定日	平成 20 年 7 月 30 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	11 人	常勤 8 人 非常勤 3 人 (常勤換算)	人)

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1階	~ 1 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額	30,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無	
食費	朝食	200 円	昼食	400 円	
	夕食	400 円	おやつ	0 円	
その他の費用	月額	25,000 円			
	内訳	日常生活用品費10,000円、光熱水費15,000円			

### (4) 利用者の概要 (1月20日現在)

利用者数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
	要介護 1	0	要介護 4	0	
	要介護 2	1	要介護 5	1	
	要介護 3	7	要支援 2	0	
年齢	平均 87 歳	最低 79 歳	最高 94 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 周山病院、牛尾医院、カイクリニック 歯科 王喜歯科、王司歯科
-------------	--------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)	複数の医療機関と連携して本人、家族共に安心できる状況を備えています。緊急時の応急手当、身体拘束などの研修、復命など働きながらのトレーニングを勧めています。誤嚥の対処法を全職員が学び、実施できます。
(特徴的な取組等)	栄養士、准看護師、保育士、歯科衛生士と資格を持った職員が多く、20代～60代の幅広い年齢構成になっています。また、常勤8人、非常勤3人の体制で、シフトにおいても月3日は希望休がとれるなど、利用者、職員共に配慮した職員配置や勤務調整をされています。

## 【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)	運営推進会議、家族会にて報告しています。前回の評価結果をふまえて、ケアカンファレンスを定期的実施し、介護計画の評価の記入方法について検討しました。また、介護計画の共有を徹底しました。
(今回の自己評価の取組状況)	全職員で検討後、管理者が記入しています。自己評価の意義(サービス水準の向上に向けた体制づくり)を再確認すると共に、サービスの質の向上に向けて前向きな姿勢や取り組みが見られます。
(運営推進会議の取組状況)	2ヶ月に1回開催しています。地域包括支援センター職員、民生委員、自治会連合会会長、婦人会会長、第三者委員(2人)、利用者代表、家族(1人)、理事長、管理者、主任が参加して、外部評価、行事予定、利用者の状況等を報告し、質疑応答をしています。
(家族との連携状況)	毎月発行のホーム便りに、担当者が手書きで利用者の状況や収支一覧を記載して個別に送付したり、家族の来訪時に手渡しています。また、ホームでの暮らしぶりを伝えたり、行事の案内なども伝えています。
(地域との連携状況)	夏祭り、公民館の文化祭、運動会に参加しています。また、保育園との交流、ケアハウスと合同の誕生会にボランティアで参加される婦人会の人たちとの交流、ふれあい市場の人たちと買い物を通しての交流などがあります。また、日頃から理事長が地域の会議等に出席して理解を求めておられ、外出傾向のある利用者については、近くのコンビニや公民館の協力も得ています。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「ここにありますが、いつも安心、楽しい生活」という理念を作成しているが、地域密着型サービスとしての理念の見直しはされていない。	・地域密着型サービスとしての理念の検討
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念の実践に向けた取り組みについての話し合いは不十分である。	・理念の実践に向けた取り組みについての全職員の共有
2. 地域との支えあい			
3 (7)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	夏祭りや公民館の文化祭に参加している。ケアハウスと合同で行われる誕生会ではボランティアで参加される婦人会の人たちと交流している。他にも、ふれあい市場の人達と買い物を通しての交流や保育園との交流がある。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員とのミーティング、家族会、運営推進会議で外部評価についての報告や話し合いをして改善に取り組み、質の確保に努めている。自己評価は全職員で検討後、管理者が記入している。評価の意義を再確認し、前向きに取り組んでいる。	
5 (10)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2ヵ月に1回開催、地域包括支援センター職員、民生委員、婦人会会長、第三者委員(2人)、利用者、家族、理事長、管理者、主任が参加して、外部評価、行事、利用者の状況等について意見交換をしている。	・メンバーの拡大(消防、警察等)
6 (11)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の関係部署と連携している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月発行のホーム便りに、担当職員が手書きで利用者の状況や金銭出納状況を個別に送付したり、来訪時に渡している。来訪時にも暮らしぶりを伝えたり、行事の案内なども伝えたりしている。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族会で意見を聴取している。意見箱を設置している。相談・苦情については受付窓口、外部機関、第三者委員(2人)を明示し、苦情処理の手続きも明確にし、何事も前向きに受け止め、運営に活かしていくことに努めている。	
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤8人、非常勤3人で、職員3人体制を5時間確保し、利用者の要望や状況の変化に対応している。有給休暇の他に、月3日の希望休があり、職員相互で話し合い勤務調整をしている。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職を抑える努力をし、やむを得ず職員の異動や離職が生じた場合には、早急に対処し、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ホームより研修の情報提供をし、職員の希望も聞きつつ研修の参加をすすめている。研修後は復命書に研修の概要・内容、感想、意見を記載し、回覧で共有している。研修で得た知識や技術は日々のケアに活かしている。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会やブロック研修会に参加している。施設見学や学習会を通じて情報を交換し、サービスの質の向上に活かしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
13 (31)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に職員が自宅を訪問して本人や家族と話し合ったり、本人と家族で見学をすることも。家族に生活歴等のシートを渡して記入してもらい、徐々に馴染めるよう相談しながら対応している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
14 (32)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者は人生の先輩であるという考え方を職員が共有し、裁縫や野菜作り、草取り等では教えてもらうこともある。和やかな生活が送れるよう声かけなどをしながら、お互いが支えあう関係を築いている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
15 (38)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で声をかけ、言葉や表情から本人の希望を引き出す努力をしている。本人にとってどこでどのように暮らすことがよいか話し合っている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
16 (41)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	自分らしく暮らせるよう家族等に要望を聞き、本人本位の計画作成に努めている。月1回、職員会議にてカンファレンスを実施し、情報の共有を図り、意見交換し、出された意見やアイデアを計画に反映させている。	
17 (42)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	6ヶ月の見直しを原則とし、毎月ケアカンファレンスを開催し、計画の見直しをしている。その際には、可能な限り現時点での利用者の状況、本人や家族の要望等に応じて、現状に即した介護計画を作成している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
18 (44)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	かかりつけ医の受診、他施設や自宅訪問、葬儀などの特別な外出や送迎の支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者のかかりつけ医の訪問診療(月1回)、協力医も月1回往診している。家族同行の受診を基本とし、受診の結果などの情報は共有している。複数の医療機関と連携している。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合には、できるだけ早い段階から家族と話し合っている。希望があればターミナル的なケアにも対応する。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	個人情報の取り扱いは契約書に明記するとともに、プライバシーを損ねるような言葉づかいをしないよう職員は認識している。個人ファイル等は事務室のロッカーに保管している。入浴時等のプライバシーも保護されている。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。調査当日も、ゆっくりと朝食をとっている様子が見られた。また、買い物や散歩などは一人ひとりの状態や希望にそって支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	日頃は盛り付け、片付け、テーブル拭き等を共に行っているが、毎朝の食事と日曜日の昼食は、利用者と一緒に献立を考えて調理している。畑の野菜、鶏舎の卵、差し入れの野菜なども使って調理している。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日15:00~17:00可能であり、希望やタイミングに合わせて楽しめるよう支援している。また、重度の方は午前中、家族と一緒にケアを行い、ゆっくりと入浴している。清拭、足浴等の対応もしており、ケアハウスの温泉に行くこともある。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	折り紙、塗り絵、習字、写経、スケッチ、裁縫等、得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるように支援すると共に、本や新聞を読んで楽しんだり、野菜作りや音楽療法などの気晴らしの支援もしている。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	施設周辺を散歩したり、犬と一緒に住宅街にある系列施設まで散歩に行っている。ふれあい市場やスーパーへの買い物、近くの神社への参拝、季節ごとの花見に出かけている。ホーム利用前に家族と一緒に住んでいた地域の夏祭り等にも参加できるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束禁止のポスターを掲示している。職員は外部研修を受講後、研修内容を復命し、相互に共有している。また、内部研修や勉強会を通じて、スピーチロックやドラッグロックについて正しく認識し、日々の介護にあたっている。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出されたときにはコンビニや近隣の方からの連絡がある。家族が併設のケアハウスに居住している場合、利用者が不安を訴え長く続くときには、家族や関係者に傍らにいてもらう支援もしている。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリはっと報告書、事故防止報告書に記録し、原因、分析、対策を検討し、それを全職員で共有し、家族に報告している。マニュアルを作成して学習し、誤嚥については全職員が対処できる。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時のマニュアル、連絡網を整備している。普通救命講習を受講しており、緊急時の対応や応急処置の研修を受講し、研修内容を復命し共有している。	
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、利用者と一緒に隣接のケアハウスと合同で避難訓練(夜間想定も含む)を実施している。利用者を避難させる順番、経路、場所を確認し、職員は消化器の使用法も訓練している。近隣の協力も得られるよう声をかけ、運営推進会議で働きかけている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の管理は全職員で行っている。健康管理記録に薬の説明書をファイリングして、効能、用法、副作用を確認できる仕組みを作っている。薬とさ湯を手渡し、服薬を確認している。必要な情報は医師、看護師にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	朝、夕食後に個々の力に応じて見守りながら歯磨き、うがいの支援をしている。自分でできない方は口腔用スポンジで介助している。歯科衛生士の資格をもった職員が適宜指導している。歯ブラシ、義歯の洗浄、保管は職員で対応している。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取状況を記録している。摂取量が少ない方にはこまめにとってもらよう努めている。栄養バランス等についての専門的な観点の助言はケアハウスの栄養士が行っているが、ホーム職員にも栄養士がおり対応している。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	うがい、手洗い、アルコール消毒等で衛生に気をつけるとともに、マニュアルを作成して対応している。インフルエンザ予防接種は利用者、職員全員が受けている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	食堂兼居間は広々として、食べ物の匂いや包丁の音が心地良く生活感がある。ソファや椅子もゆったりと配置され、居場所が確保されている。天窓や掃き出しの大きな窓は明るく、季節の花や折り紙の花が彩りを添えている。のんびりと座っている利用者の傍らには猫が寝ころんでいることもあり、穏やかさが感じられた。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	テレビ、自身の作品、ぬいぐるみ、写真などが持ち込まれている。お気に入りの腕時計を持っている方もおり、家族と共にその人らしく居心地の良い居室づくりに努めている。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム王喜の郷
所在地	山口県下関市王喜本町6-1-12
電話番号	0832-83-2834
開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日

## 【サービスの特徴】

常勤職員が多いのが特徴です。24時間の介護、観察が可能で個々人を熟知するようになります。家庭的な雰囲気、入居者同士がうまく生活できることを念頭において介護をしています。

## 【実施ユニットの概要】 ( 1 月 20 日現在 )

ユニットの名称	グループホーム王喜の郷			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名	
	要介護 1	0	要介護 4	0
	要介護 2	1	要介護 5	1
	要介護 3	7	要支援 2	0
年齢構成	平均 87 歳	最低 79 歳	最高 94 歳	

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	2名の職員が中心になってまとめました。
評価確定日	平成 20 年 1 月 23 日



## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
．理念に基づく運営 1．理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		文化祭、運動会へ参加する。または見学する。
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		穏やかな暮らし。
3	<b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		運営理念を検討する。
4	<b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		職員とともにサービスの質の向上をはかる。
5	<b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。		
2．地域との支えあい			
6	<b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。		気軽に訪問してもらえるような雰囲気づくりをする。
7 (3)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		地域活動に積極的に参加する。
8	<b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		認知症デイサービスも法人内にあるので認知症について専門性をもって地域での役にたきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員ミーティングの中で評価について話し合い、改善に向けた取り組みをしている。	積極的なアドバイスを生かしていく。
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	第三者的な目を見た意見やアドバイスを頂くことが多く、サービスに活かしている。	運営推進会議の持ち方、生かし方を職員間で話しもっと積極的に活用したい。
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		地域包括支援センターとの連携を強めたいと考えている。
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	必要性を強く感じている。常に社会福祉協議会のアドバイスや地域包括支援センターのアドバイスを頂くようにしている。	法人成年後見の研修を受講する予定である。法人として取り組みたい。
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待ではないが、身体拘束などの検討を通じて身体的な拘束については職員間で話し合っている。しかし様々な有形無形の虐待についての検討はできていない。	無形の虐待について深めて生きたい。
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者や家族が安心できる様、十分な説明を行っている。	職員が契約内容等を知らないものも多いので職員みな理解できるように取り組む。
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常の中で利用者の声に耳を傾け、また家族会の場でも利用者の意見を聞いている。入居者の満足度についての考察は不十分かもしれない。	職員間で利用者の意見、不満が表されているか、抑えていないか検証する機会や方法をつくる。
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月グループホームだよりを作成し、日々の暮らしぶりや変化、金銭出納状況等を個別に郵送、または来訪時にお渡ししている。また訪問された時にはその都度現状を話すようにしている。	継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		未整備である。  家族の立場にたって開示情報を整理する必要がある。
18 (8)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		玄関にご意見箱を設置している。 相談や苦情を受け付ける職員、第三者委員を明示している。  家族会のときに家族の皆さんの理解ができるようにテーマとしてあげ、身近なものとして知ってもらい、活用してもらう。
19	<b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		個別に職員に聞いている。  意見、提案は重要なので聞く方法、生かす方法をつくる。
20 (9)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		他の事業所との連携をとる方法で行っている。  他の事業所職員との連携を深めたい。
21 (10)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		いつの間にか、ということをお頭においています。  左に同じ。
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		不十分。  次年度は取り組みます。
23	<b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		年代(20代から60代)や資格(看護師や介護福祉士、保育士等)も様々なメンバーである。  職員間での世代役割が不分明であるので職員が意識できるようにしていく。
24 (12)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		グループホーム学習会に参加している。ネットワーク作りなど他施設の職員との横のつながりが充分持ちえていない。  グループホーム学習会や外部研修などで交友関係を広げる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		何らかの環境が必要だとは感じている。
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		まず個々人が職務についてどのように取り組みたいかを話し合います。
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		継続します。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		入居前面談を増やす。
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		対家族、対本人という対応をしてきた。家族、本人、職員と三者での話し合いを持つ。
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		家族からの情報が優先している。本人からの希望をもっと聞き取っていきたい。
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		介護する者としては徐々に馴染んで頂きたいがどうしても家族ができない場合が多い。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		継続します。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		継続します。
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		職員間でもう少しそれぞれの状況を理解する話し合いをもつ。
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		こちらから出かけていくことを家族にも協力を呼びかけて少しずつやってみたい。
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		利用者のお互いの接点が見つけにくいのもっと利用者のことを知ることに勤める。
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		個々の職員が把握している情報を共有化する。
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		継続する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	現在は、介護側が状況を把握しながら介護計画を作成している。	家族会の中で、家族が介護計画に関わっていただけるよう話し合っている。
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	不十分である。	家族と十分に話し合う機会を設けていないので設ける。
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	24時間パターンシートに記録して、実践している。	現在行っている方法を継続するが不十分であれば変えていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	多機能性？	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	そのようなかわりかはできていない。必要性があれば指定期待。	
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	相談対応や研修の受け入れ等は実施している。	認知症デイサービスや居宅の諸事業所との連携において積極的に行ってきたい。
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	現時点ではしていない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		継続する。
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		継続する。
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		継続する。
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		継続する。
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		終末期についての話し合いの機会を職員で持つ。
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		どうしても事業所の都合が優先されるので、もっと家族と話し合いを深めておく必要がある。
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	一人ひとりの人格を尊重した対応、言葉かけに努めている	
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	一方的な介護にならない様、それぞれの方に合わせた対応、質問をしその方の思いを受け止められるよう努めている。	
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	本人の力を発揮できるよう、職員は見守り、難しい所を少し手助けするようにしている。	
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	一人ひとりのペースを大切にし、アクティビティの参加や入浴を無理にすすめないようにしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	本人や家族の希望を大切にしているが、現時点では全員訪問美容室(ビューティヘルパー)を利用している。	
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	一人ひとりの力を活かし食事作りや片付けに参加してもらっている。メニューの中に好みの物や旬の物を取り入れ楽しみながら食事できるよう心がけている。	
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	現在お酒やたばこを望まれる方はないが、誕生会などの時にはお酒を飲まれる方もいる。おやつや飲み物は希望を取り入れている。	
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	おむつ外しを目標に、一人ひとりの排泄パターンの把握、支援に努めている。	



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの希望には添えていない		気分よく入浴してもらえるよう生活の流れやタイムスケジュールの検討をしていきたい。
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	日中でも自由に横になり、休息できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	趣味や得意分野を活かし、楽しみながら日々を過ごしてもらっている。		職員間で生活歴を把握し、共有化していく。
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在、お金は施設で管理しており、個人の手元にははい。希望に応じて家族や職員と買い物へ出て購入している。		
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気のよい日や体調のよい日は、できるだけ日光浴や散歩に出るようにしている。		
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かける機会をつくり、支援している。	季節が変わることにお花見に出かけている。		
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人から希望があれば電話をして、話ができるようにしている。		
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	日頃の様子などを話し、和やかな雰囲気になるよう心がけている。		
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	希望に応えられるよう、食事や寝具の貸し出し等、適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<p><b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援			
74 (27)	<p><b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>		
75 (28)	<p><b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		
76	<p><b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>		
77	<p><b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		
78 (29)	<p><b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>		
79 (30)	<p><b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>		急変時に備え、全ての職員が対応できるように、ミーティングの時などを利用して定期的に訓練をしていきたい。
80	<p><b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を行っている。	
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	本人が安心して暮らせる様に、家族の希望も交えて対応策を話し合っている。	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	早期発見に努め、速やかにかかりつけ医に連絡するようにしている。朝、夕の申し送り、また日誌や連絡ノートの記録により、職員間での情報の共有に努めている。	
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の管理は全て職員がおこなっている。健康管理記録ファイルに薬の効能や用い方の説明書をとじ、いつでも確認できるようにしている。医師や看護師にフィードバックしている。	
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	ほぼ毎日ヨーグルトを食べてもらっている。排便の有無を把握し、二日間排便が無い時に限り、下剤の服用をしている。	
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	朝・夕の1日2回、食後に、職員が見守りながら歯磨きやうがいをしてもらっている。自分で出来ない方は口腔用スポンジを使い介助している。	
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量を確認し、記録している。水分量が少ない方には時間を置きこまめに摂ってもらうようにすすめている。	
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成しており、すぐに対応できるよう努めている。	
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器洗浄機の活用、アルコール消毒を実行するなど衛生に気を付けている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	手すりの取り付け、十分な踏み幅のある階段等、安全に入れるようにしてある。	
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	食堂は台所と対面しており、食事のにおいや包丁の音などが聞こえ、生活感が感じられるようになっている。季節の花を生けたり、壁絵を飾ることで季節感も感じてもらえるよう努めている。	
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂のテーブル、デッキ側のソファの他に、談話室が2箇所がある。	
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	人によっては小物類も全てたんすにしまわれ、殺風景な居室になっている方もいるが、服など身に付ける物や日常使う物は本人の好みのものを用意してもらっている。	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	日中、天気のよい日は窓を開け、空気の入換えをしている。温度、湿気計を見ながら、夏は冷えすぎ、冬は暖めすぎないように注意している。床暖房で調節もしている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	段差が無く、廊下やトイレ、浴室には手すりがついている。	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室とトイレの戸の色が違い、分かりやすくなっている。各自の部屋の入り口もわかり易く目印を掲げている。	
97	<b>建物の外周リや空間の活用</b> 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭にはベンチがあり、気軽に日光浴ができるようになっている。また、鶏小屋や畑があり、眺めて楽しめることも多い。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1/3くらいの	利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1/3くらいと	家族の2/3くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1/3くらいが	職員の2/3くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1/3くらいが	家族等の2/3くらいが ほとんどできていない